

CONCERT MARIMBAS

**YM-460/460F/410D/410/410F/46/41/
2400/2400R**

取扱説明書

Owner's Manual

Руководство пользователя

使用手册

사용설명서

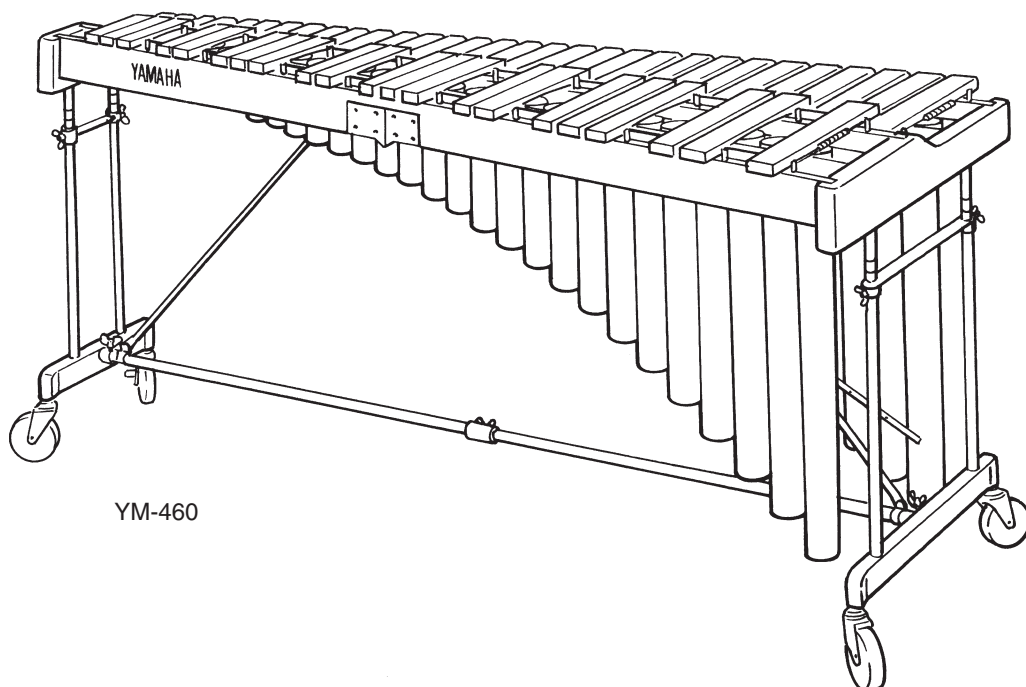
『安全上のご注意』(2ページ)を必ずお読みください。

Make sure to read the "Safety Precautions" on page 22 and the "PRECAUTIONS" on page 23.

Обязательно прочтите разделы «Меры безопасности» на стр. 40 и «МЕРЫ ПРЕДОСТОРОЖНОСТИ» на стр. 41.

务请阅读第 58 页的“安全注意事项”和第 59 页的“注意事项”。

76 페이지의 “안전 주의사항” 및 77 페이지의 “주의사항” 을 반드시 읽어 주십시오 .



YM-460

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、

お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

設置

 楽器を移動するとき以外は、必ずキャスターのストッパーを左右2ヶ所ともかけてください。
楽器が移動したり倒れたりして、けがの原因となります。

 楽器をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

取り扱い

 キャスターや高さ調節部のすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。
はさまれて大けがをすることがあります。

 楽器にもたれかかったり、乗ったりしないでください。
楽器が倒れて、大けがをすることがあります。

 楽器のまわりで遊ばないでください。
身体をぶつけてけがをすることがあります。楽器の転倒の原因にもなります。お子様が楽器のまわりで遊ばないように注意してください。

 地震による強い揺れにより、楽器が移動したり転倒するおそれがあります。
地震の際は楽器に近づかないようにしてください。

移動

 キャスターを利用した移動は、滑らかな平坦面でのみ行ってください。
側枠の上部をささえ、間口方向へゆっくりと押し込んでください。

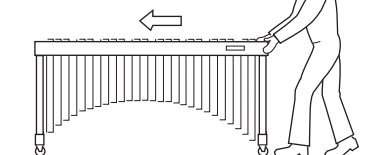
キャスターを利用して移動する時には

- 傾いた所や凸凹のある道、じゃり道は避けてください。
楽器が倒れたり暴走したりして危険です。
- 走らないでください。楽器が止まらなくなって、壁にぶつかるなどして大けがをすることがあります。
- 持ち上げて運ぶ際は、必ず2人以上で、側枠を両手で持って運んでください。長枠を持つと外れて落下転倒の危険があります。側枠以外は絶対に持って運ばないでください。

※コンサートマリンバの質量は、おおよそ次表のとおりです。

YM-41	41kg
YM-46	44kg
YM-410	49kg
YM-410F	55kg
YM-410D	55kg
YM-460/YM-2400R	55kg
YM-460F/YM-2400	61kg

側枠の上部をささえ、
間口方向へゆっくりと押す



 楽器を組み立てた状態で、階段の登り降りをして運ばないでください。
部品が落下したり、バランスを崩して倒れたりして危険です。必ず分解した状態で運んでください。

注意

組立

 分解 / 組立の手順は、必ず本取扱説明書 7～12 ページ (YM-460/460F/410/410F/46/41/2400/2400R)、14～18 ページ (YM-410D) の「組立手順」の通りに 2 人以上で行なってください。

誤った手順で組み立てると、パイプが落下し、けがの原因となったり、機能が十分に働かなかったり、雑音発生の原因になったりします。

 YM-460/460F/410/410F/2400/2400R の打面の高さ調整 (12 ページ) は、必ず音板を外した状態で、2 人以上で行なってください。

音板をセットし組み立てた状態での高さ調整は大変危険ですので絶対におやめください。

 脚部のネジは、必ずくびれ位置で止めてください。くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべって危険ですので、絶対におやめください。

 脚部のネジは、位置が決まったらしっかりと締め付けて固定してください。

ゆるんだ状態で使用すると演奏中に楽器がずれたり、雑音が出たり、トラブルの原因になります。またこれらのネジは時々締め直してお使いください。

設置

 次の場所では使用しないでください。梱包されたままであっても同様です。

調律が狂う原因となります。

- ・ 窓際などの直射日光の当たる場所や、日中の車内、暖房機具のそばなど、極端に温度が高い場所
- ・ 湿気やホコリの多い場所
- ・ 振動の多い場所

取り扱い

 楽器の上にものをのせないでください。
音板や枠を傷める原因となります。

 割れた音板はすみやかに交換してください。
音板の割れ目は鋭利ですから、手などを切る危険があります。

 頻繁に移動するような場合は、各部のボルト類がゆるむことがあります。
移動前後には、ゆるみをチェックし、ゆるんでいる場合は締めてください。

 マレットは演奏目的以外には使用しないでください。
けがや事故の原因となります。お子様が人の身体を叩いたり、口に入れたり、危険な行為をしないように注意してください。

 木製音板を、硬質のマレットや、その他の硬いものでたたかないでください。
音板にへこみやキズができたり、音律が狂う原因ともなります。

 アコースタロン音板では、硬質マレットによる超強打は避けてください。
音板が割れたりすることがあります。

 組み立て時、手を挟まないよう、注意してください。
特に長枠、共鳴パイプのセット時には、2 人で確認しながら作業してください。

 音板のお手入れには、乾いた柔らかい布やシリコンクロスをご使用ください。シンナーやベンジン、濡れぞうきんなどは絶対に使わないでください。
音板の表面塗装を侵すなど、楽器を傷める原因となります。

移動

 移動の際にはキャスターのストッパーが解除されていることを確認してください。また、平らな床面以外では、少し持ち上げるようにしてください。
安定して移動することができます。

 車で運ぶ場合は、お買い上げ時の状態 (6、13 ページ参照) まで分解し、しっかり梱包してください。
はだかのまま移動すると、楽器が傷つく原因となります。分解は、組立と逆の手順で行なってください。

 移動の際は、ていねいに取り扱い、決して落としたり、投げたりしないでください。
楽器が傷つく原因となります。

このたびは、ヤマハコンサートマリンバをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ヤマハでは、音色の美しさと演奏のしやすさに主眼をおいて研究を重ね、厳選した高級素材、また、ヤマハ独自の FRP 素材（アークスタロン）を用いて、このマリンバをつくりあげました。伸びの良い深い響き、豊かな音量感など、きっとご満足いただけることと存じます。

本書では、ヤマハコンサートマリンバの正しい取り扱い方を説明しておりますので、ぜひご一読のうえ、末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

ヤマハコンサートマリンバの特長

1. 最高級の音板材

音板材には、理想的な響きと音色を生み出すローズウッド、また、柔らかく深みのある豊かな音色を実現するアフリカンバドック材を使用。充分な自然乾燥を施した上で、さらに選び抜かれた素材だけを用いています。

F タイプには、FRP 素材にユニークな中空構造を採用したヤマハ独自の FRP アークスタロン音板を使用。最高級ローズウッドに極めて近い明快な響きを実現しました。優れた遠達性と豊かな音量感、湿度に影響されず、温度による影響も少なく、木製音板に比べ、ピッチ変化が少ない高耐候性を確保しました。

2. 精密な調律

音板の調律は、温度・湿度が一定にコントロールされた部屋で、熟練した技術者の耳と正確なストロボ式チューナーを使用して行なわれます。音色を決定する倍音調律も精密に行ないますので、ムラのない安定した音律と音色が得られます。

3. 組み立て、分解が容易

収納・運搬に便利なように、組み立てや分解が簡単にできる構造になっています。また、YM-460/460F/410D/46/2400/2400R は杵を二つ折りに、パイプも 2 つに分かれるなど、コンパクトな設計になっています。

4. 高さ調整機能

(YM-460/460F/410/410F/2400/2400R)

高さ調整が可能です。支柱の凹にネジを差し込む方式で演奏中のガタツキやズレもありません。

YM-460/460F/2400/2400R は最低 89cm から最高 97cm までの 5 段階の高さ調整が可能です。YM-410/410F は標準 88cm から最低 76cm までの 7 段階の高さ調節が可能なので、児童から大人まで正しい姿勢で演奏ができます。

5. 大型キャスター

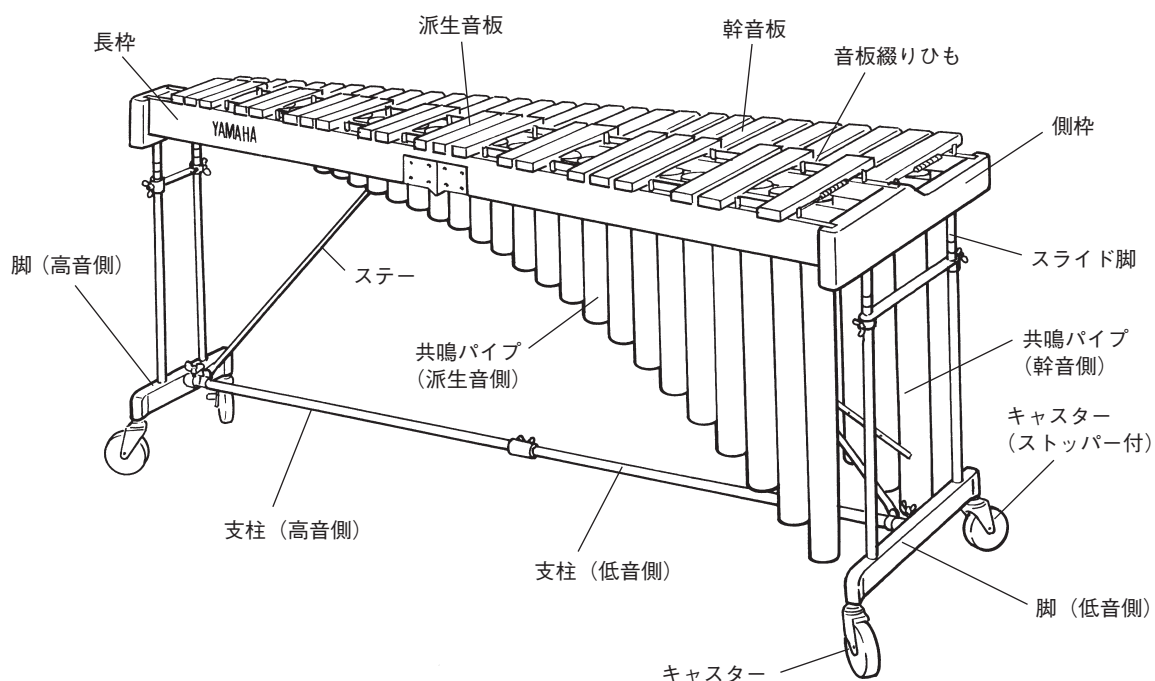
キャスターに $\phi 100\text{mm}$ の大型を採用。スムーズな移動が可能です。(YM-46/41 は $\phi 75\text{mm}$)

6. 3 段階の共鳴パイプ高さ調整機構

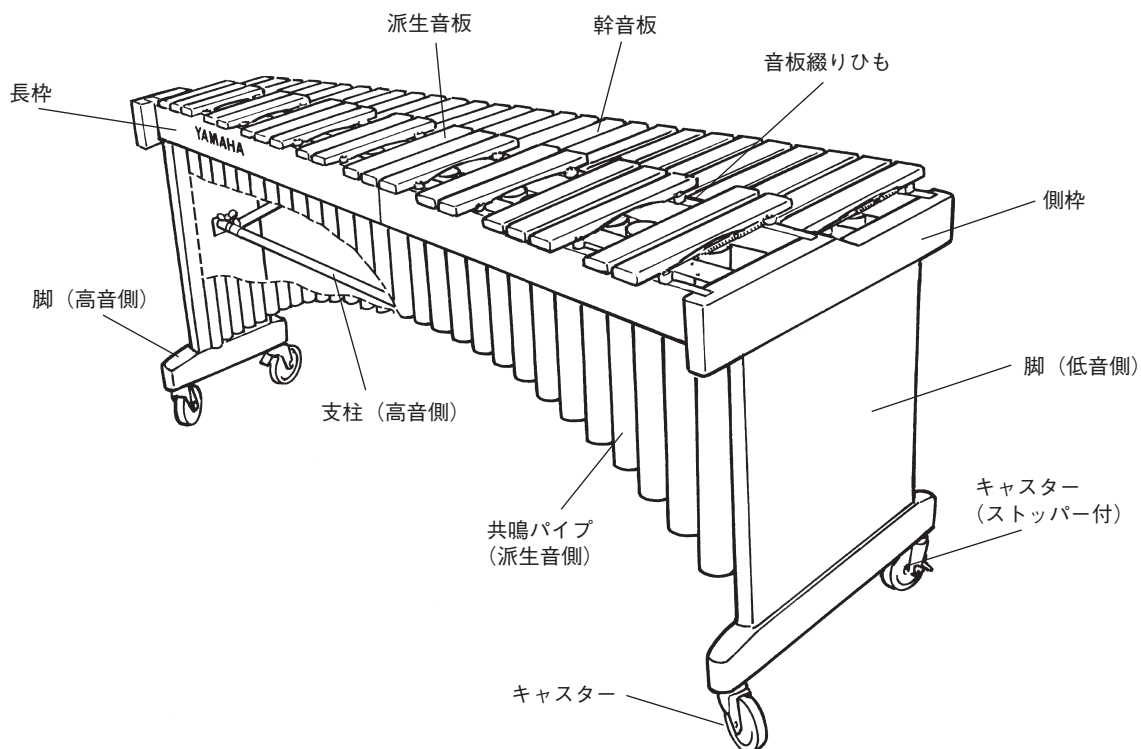
温度の変化に対しても最適な響きが失われないよう、3 段階の共鳴パイプ高さ調整機構があります。(YM-41 のみ 2 段階)

各部の名称

■ YM-460/460F/410/410F/46/41/2400/2400R (イラストは YM-460)



■ YM-410D



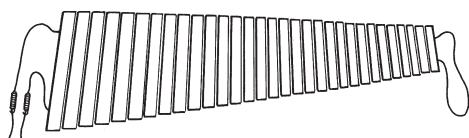
部品の確認

梱包箱の中には、以下の部品が入っています。

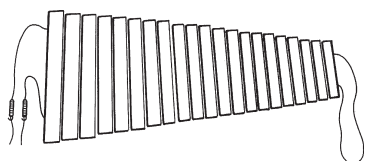
組み立ての前に、すべての部品がそろっていることを確認してください。

※ 部品が不足している場合は、お買い求めになったお店へご連絡ください。

① 幹音板

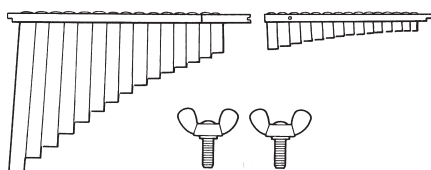


② 派生音板



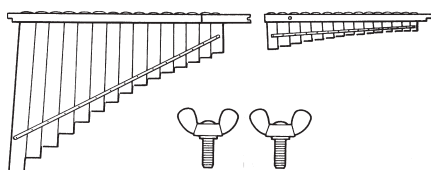
③ 共鳴パイプ (幹音側)

YM-460/460F/410/410F/46/2400/2400R :
2 分割 + 止めネジ × 2
YM-41 : 一体型



④ 共鳴パイプ (派生音側)

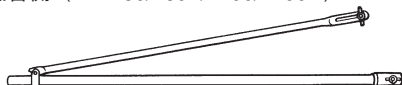
YM-460/460F/410/410F/46/2400/2400R :
2 分割 + 止めネジ × 2
YM-41 : 一体型



⑤ 支柱

YM-460/460F/46/2400/2400R : 2 分割
YM-410/410F/41 : 一体型

低音側 (YM-460/460F/2400/2400R)



高音側 (YM-460/460F/2400/2400R)

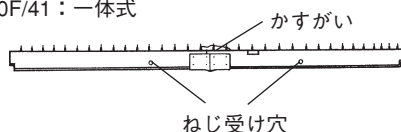
⑥ 長枠 (1)

YM-460/460F/46/2400/2400R : 二つ折り式
YM-410/410F/41 : 一体式



⑦ 長枠 (2)

YM-460/460F/46/2400/2400R : 二つ折り式
YM-410/410F/41 : 一体式



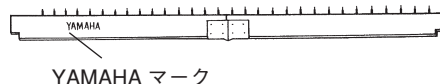
⑧ 長枠 (3)

YM-460/460F/46/2400/2400R : 二つ折り式
YM-410/410F/41 : 一体式



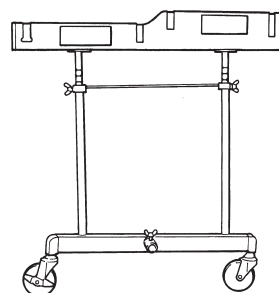
⑨ 長枠 (4)

YM-460/460F/46/2400/2400R : 二つ折り式
YM-410/410F/41 : 一体式



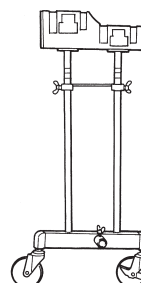
⑩ 脚 (低音側)

YM-460/460F/410/410F/
2400/2400R :
高さ調整あり
YM-46/41 :
高さ調整なし



⑪ 脚 (高音側)

YM-460/460F/410/410F/
2400/2400R :
高さ調整あり
YM-46/41 :
高さ調整なし

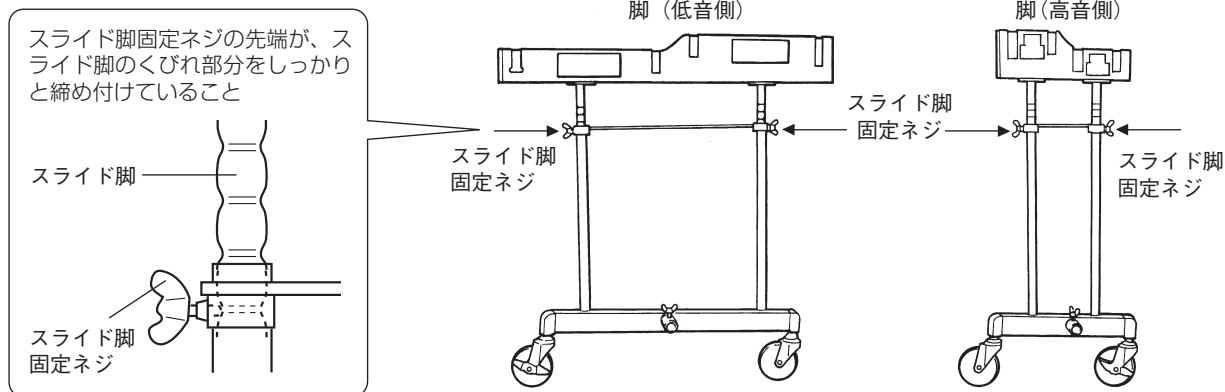


組立手順

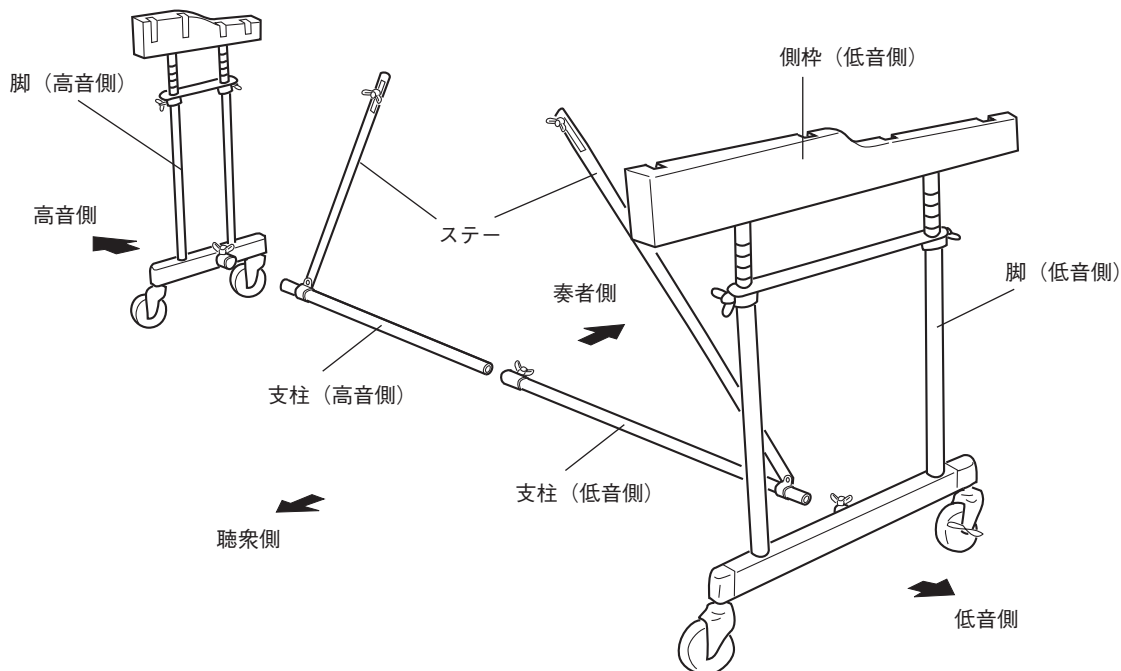
安全のために、組み立ては2人以上で、十分スペースのある場所で行なってください。
床にジュタンや柔らかい布などを敷いておくとい良いでしょう。

1 脚（低音側）と脚（高音側）を、支柱でつなぎます。

※ YM-460/460F/410/410F/2400/2400R は、両脚（低音側、高音側）ともに、スライド脚固定ネジがしっかりと固定されていることを確認してから以下の作業を行なってください。



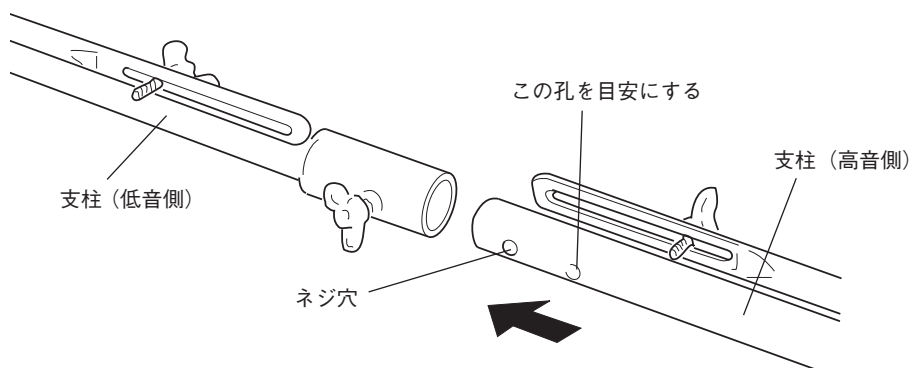
1-1 組み立てたときに下図の位置関係になるように、脚（低音側）、脚（高音側）、支柱を配置します。



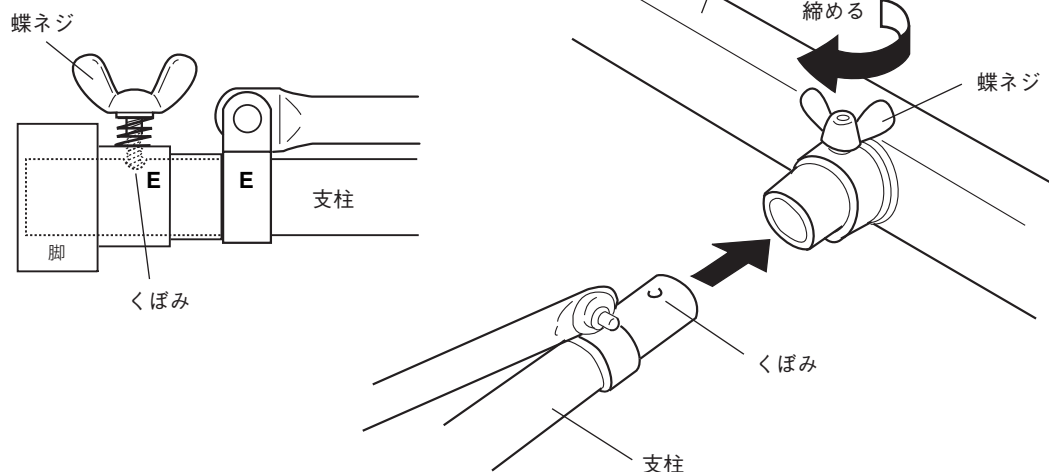
組立手順

- 1-2 YM-460/460F/46/2400/2400R は、支柱を中央部で連結します。蝶ネジの先端と支柱のネジ穴を合わせ、蝶ネジを締め付けて固定します。

※ ネジ穴近くの孔を目安にして支柱を差し込んでください。



- 1-3 脚（低音側）の連結用穴に、くぼみを上面にして、支柱を止まるまで差し込み（この位置で蝶ネジの先端が支柱のくぼみ部分にきます）、蝶ネジを締め付けて固定します。
(接続部に“E”の文字が記してあります)



- 1-4 脚（高音側）も同様にして、支柱と接続します。
(高音側接続部には文字はありません)

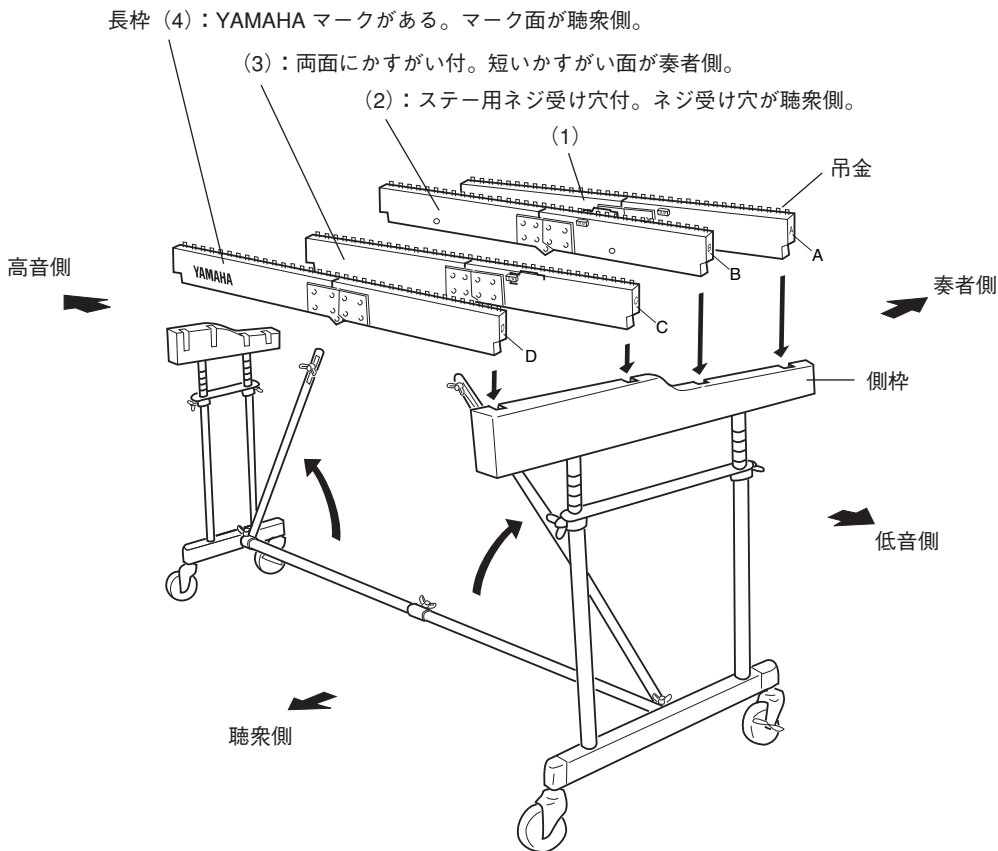
2 長枠 (2) , (3) を側枠にはめ込みます。

2-1 まず長枠 (2) をはめ込みます。音板吊金の間隔の広い方が低音側にくるようにします。

長枠 (2) の低音側木口面および、低音側側枠の溝部には **“B”** の文字が印字されています。

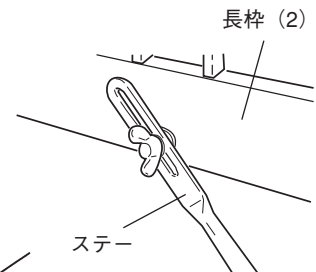
※ 片側だけを先に入れずに、左右少しずつ入れていって、完全に下まで (止まるまで) 押し込んでください。

この段階で、音板高さを調整することができます。(→ 12 ページ [6] をご参照ください。)



2-2 左右の脚が垂直になっていることを確認した後、長枠 (2) のネジ受け穴にステー先端のネジをしっかりと締め付けます。

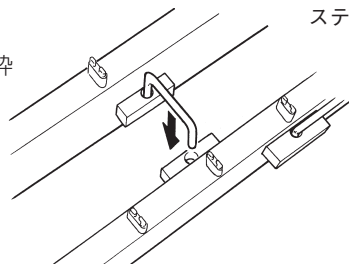
※ YM-410, 410F にはネジ穴が 2 個ありますが、脚高さに応じて、低い場合は中央寄りのネジ穴に、高い場合は外側のネジ穴にしっかりと締め付けてください。



2-3 続いて長枠 (3) をしっかりとめ込みます。

長枠 (3) の低音側面木口面および、低音側側枠の溝部には **“C”** の文字が印字されています。

2-4 長枠 (3) の中央部に付いている短いかすがいを長枠 (2) に掛けます。



組立手順

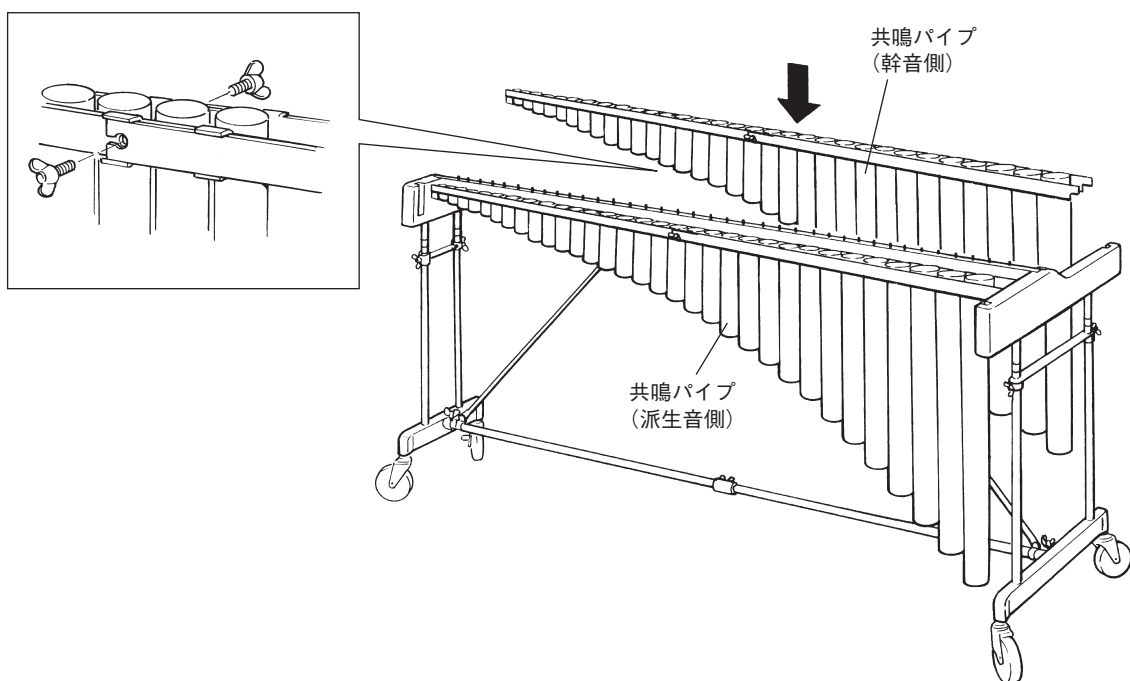
3 共鳴パイプを取り付けます。

3-1 YM-460/460F/410/410F/46/2400/2400R は、パイプを組み立てます。
幹音用、派生音用を間違えないで組み立ててください。
幹音用には、すべてのパイプに底が付いています。

3-2 パイプを長枠と同じ要領で本体のパイプ受けゴムにはめ込みます。
低音側はパイプ受けゴム中央の溝にはめ込みます。*
パイプはできる限り吊金と吊金の中央にくるように取り付けます。

※ 幹音用、派生音用を間違えずに取り付けてください。

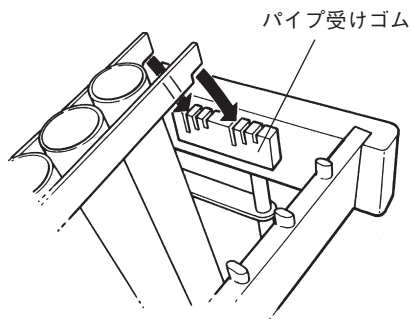
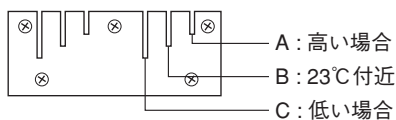
※ 共鳴パイプを脚などに当てないように注意してください。



共鳴パイプは、温度 23℃ のときに最もよく共鳴するように調整されています。

使用時の温度が 23℃ より高かったり低かったりして共鳴が悪い場合は、パイプをセットする溝を移動（温度が高い場合は浅い溝へ、低い場合は深い溝へ）してください。

温度	使用する溝
高い場合	一番浅い溝（下図 A）
23℃ 付近	中央の溝（下図 B）
低い場合	一番深い溝（下図 C）



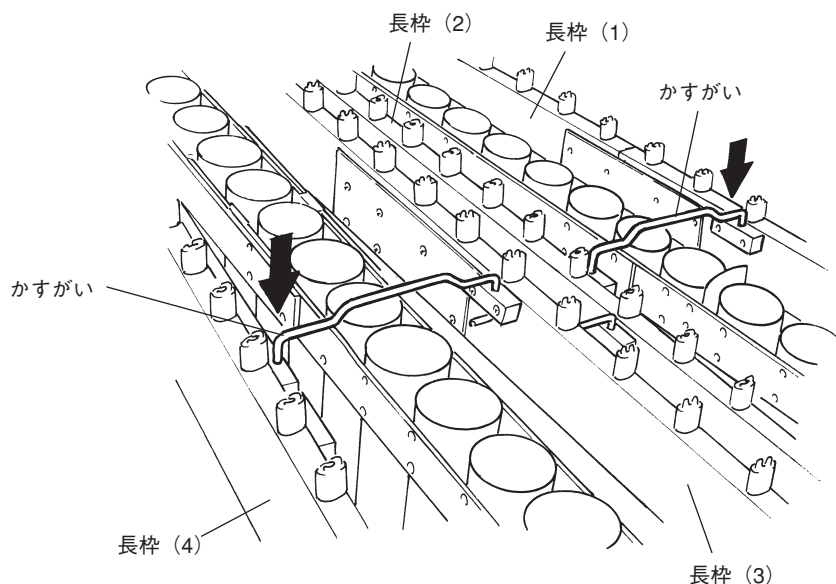
4 長枠 (1) , (4) を側枠にはめ込みます。

4-1 外側の長枠 (1) , (4) を内側の長枠 (2) , (3) と同じ要領ではめ込みます。

長枠 (1) の低音側木口面および低音側側枠の溝部には “A” の文字が、長枠 (4) の低音側木口面および低音側側枠の溝部には “D” の文字が印字されています。

5 音板をセットします。

5-1 長枠 (2) , (3) に付いているかすがいを、長枠間の間隔を調整しながら長枠 (1) , (4) にはめます。



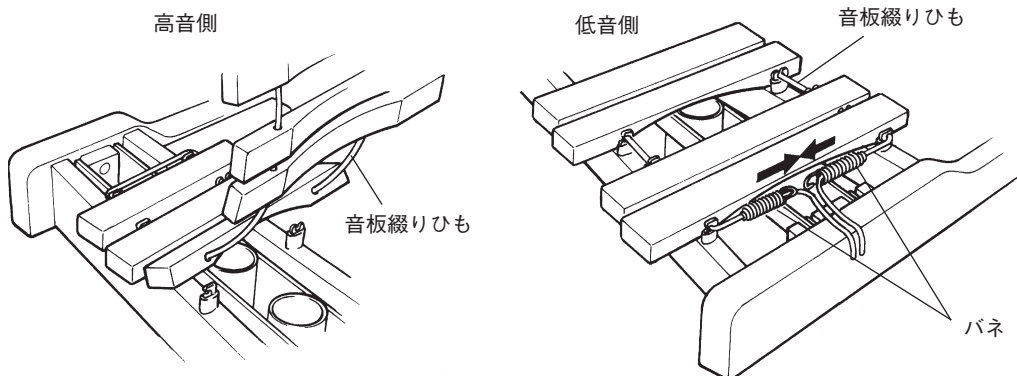
5-2 音板のセットは幹音板から行ないます。

まず 2 人でそれぞれ低音側、高音側の音板綴りひもを両手でしっかりと持ち、音板を長枠に静かにのせます。

音板の位置をひとつずつ合わせ、ひもを吊金に掛けていきます。

ひもがすべて吊金に掛かっていることを確かめたら、低音側で左右のひもを手前に強く引きながらバネどうしを掛けて固定します。

※ 音板を傷付けないよう気を付けてください。



組立手順

YM-460/460F/410/410F/2400/2400Rのみ

6 音板高さの調整

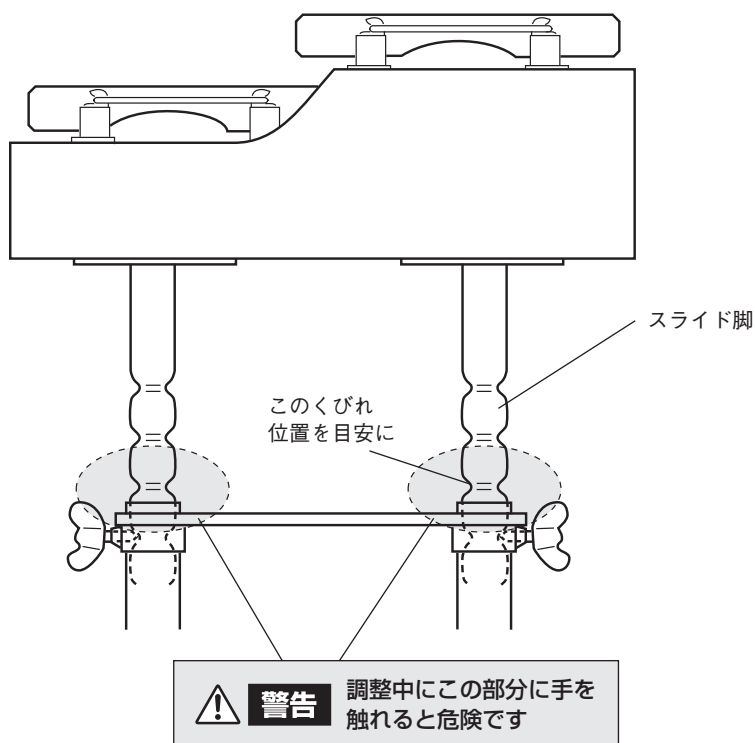
⚠ 注意 この作業は必ず2人以上で行なってください。

組立手順を [5] → [4] → [3] と逆に進んで、音板と共鳴パイプをはずし、長枠 (2) のステー固定ネジをはずし、ステーが動くようにします。

2人でそれぞれ高音側、低音側の側枠の下を手で支えながら、スライド脚を固定している蝶ネジをゆるめます。

希望する高さに合わせて、スライド脚のくびれ部分を蝶ネジでしっかりと締め付けます。ひとつ上のくびれの位置を目安にして、音板が床面と平行になるように締め付け位置を調整してください。

すべてが組み上がったら、各部のネジがしっかりと締まっていることを確認してください。



⚠ 注意 くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべて危険ですので、絶対におやめください。

※ 音板をセットし組み立てた状態での高さ調整は、大変危険ですので絶対におやめください。
必ず上記手順により部品を外してから調整を行ってください。

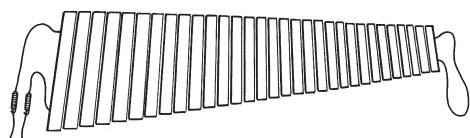
部品の確認

梱包箱の中には、以下の部品が入っています。

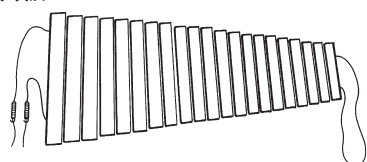
組み立ての前に、すべての部品がそろっていることを確認してください。

※ 部品が不足している場合は、お買い求めになったお店へご連絡ください。

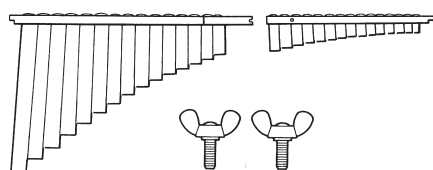
① 幹音板



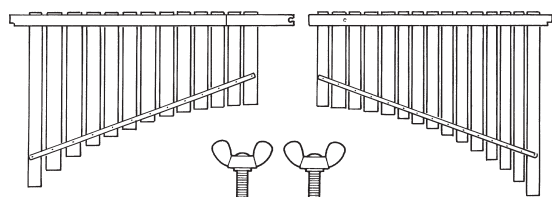
② 派生音板



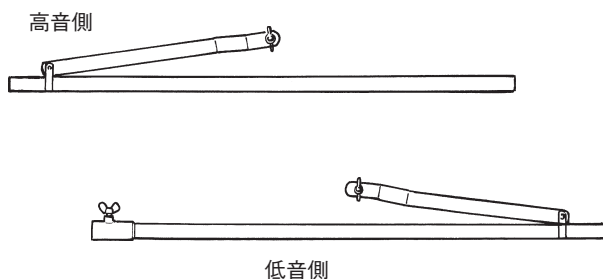
③ 共鳴パイプ (幹音側)



④ 共鳴パイプ (派生音側)



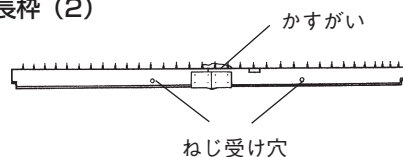
⑤ 支柱



⑥ 長枠 (1)



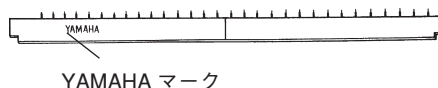
⑦ 長枠 (2)



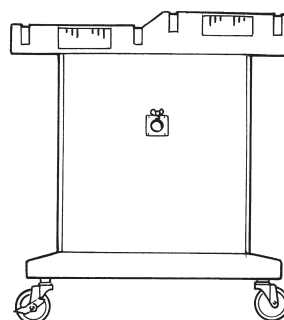
⑧ 長枠 (3)



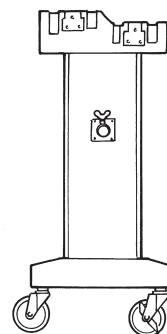
⑨ 長枠 (4)



⑩ 脚 (低音側)



⑪ 脚 (高音側)

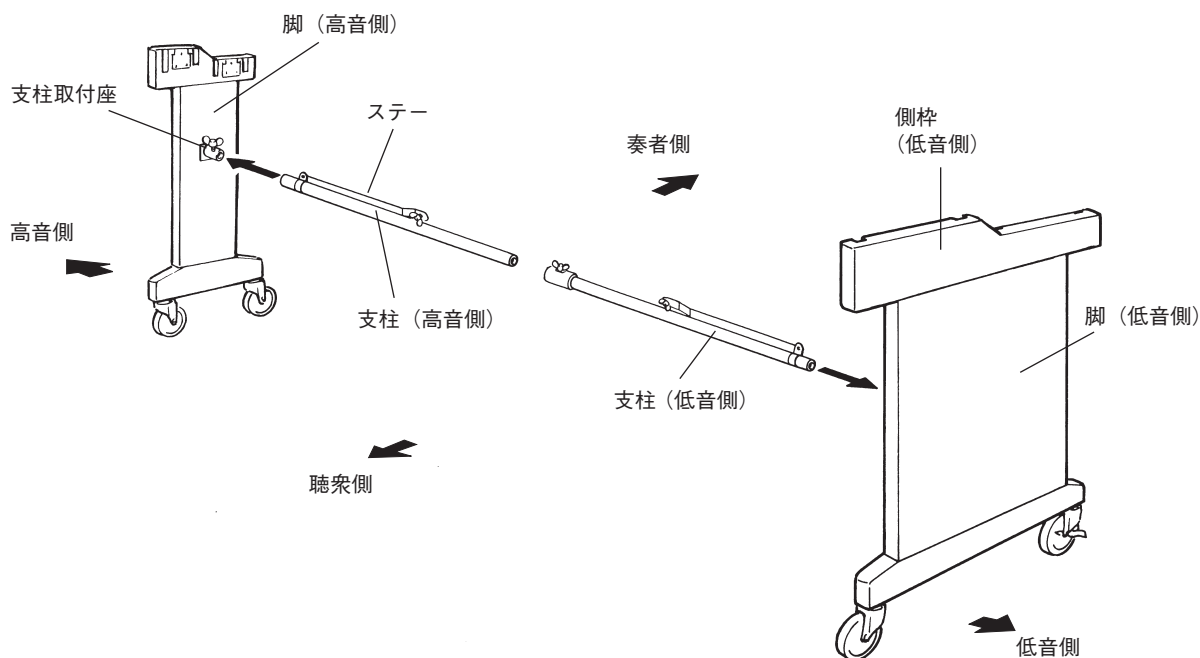


組立手順

安全のために、組み立ては2人以上で、十分スペースのある場所で行なってください。
床にジュタンや柔らかい布などを敷いておくとい良いでしょう。

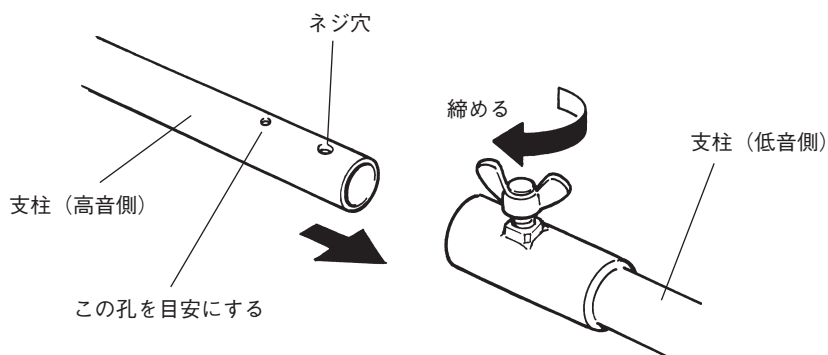
1 脚（低音側）と脚（高音側）を、支柱でつなぎます。

1-1 組み立てたときに下図の位置関係になるように、脚（低音側）、脚（高音側）、支柱を配置します。

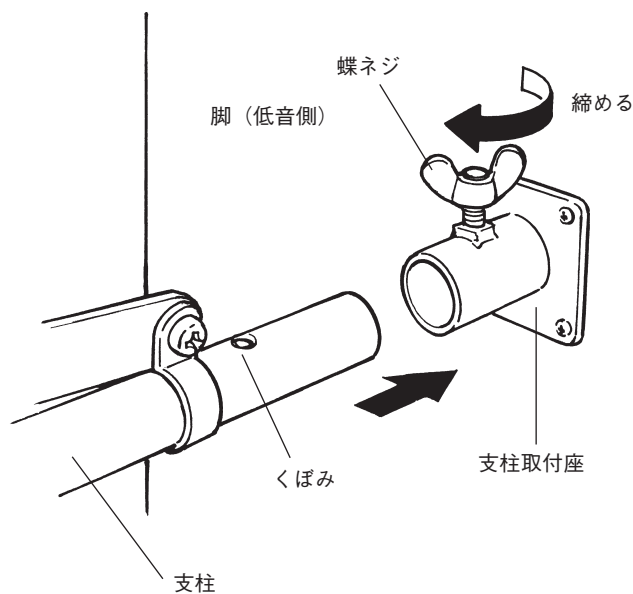
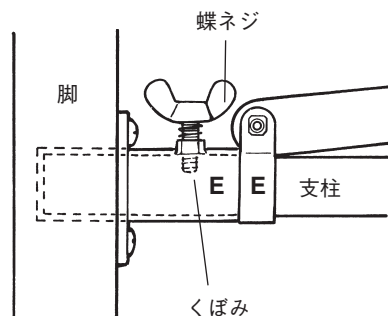


1-2 支柱を中央部で連結します。蝶ネジの先端と支柱のネジ穴を合わせ、蝶ネジを締め付けて固定します。

※ ネジ穴近くの孔を目安にして支柱を差し込んでください。



- 1-3 脚（低音側）中央部の支柱取付座穴に、ネジ穴を上面にして、支柱を止まるまで差し込み（この位置で蝶ネジの先端が支柱のくぼみ部分にきます）、蝶ネジを締め付けて固定します。（接続部に“E”の文字が記してあります）



- 1-4 脚（高音側）側も同様に、支柱と接続します。（高音側接続部には文字はありません）

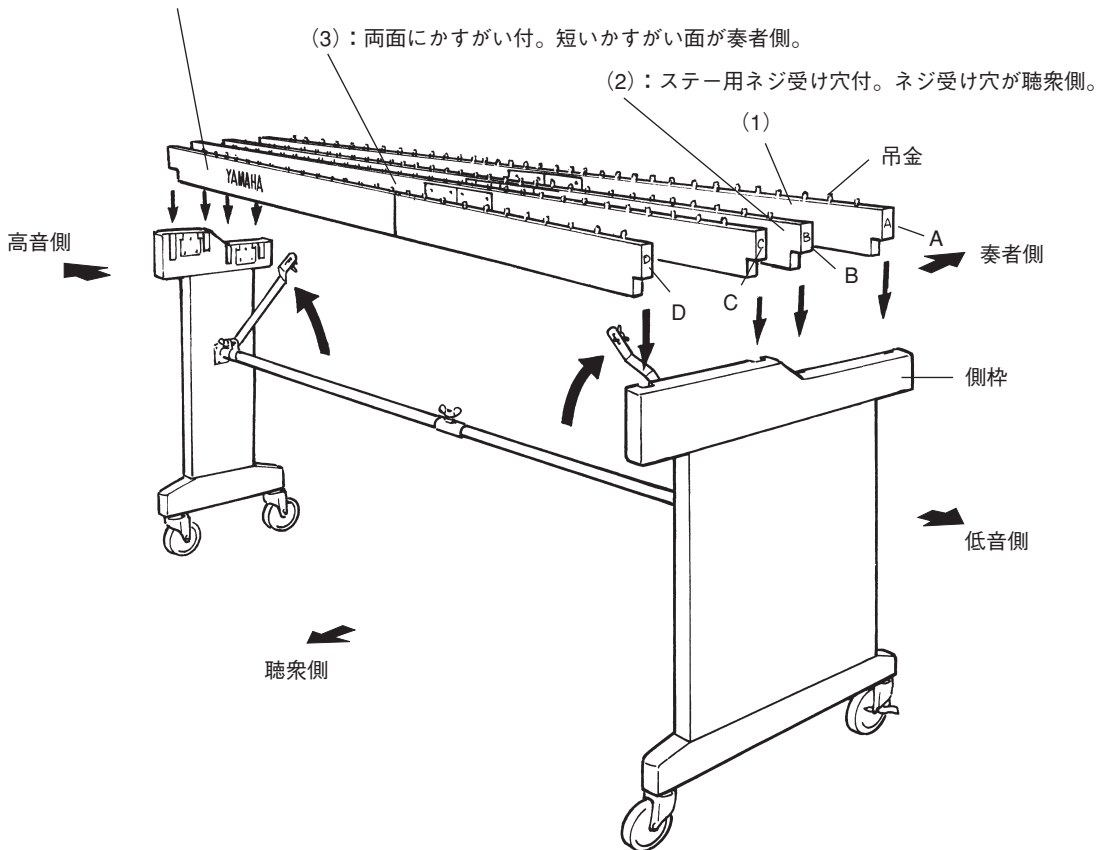
組立手順

2 長枠 (2) , (3) , (4) を側枠にはめ込みます。

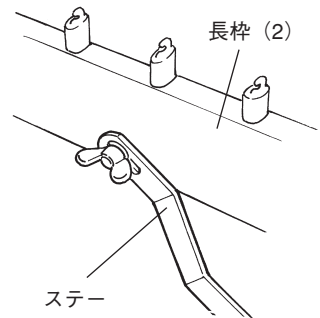
2-1 まず長枠 (2) をはめ込みます。音板吊金の間隔の広い方が低音側にくるようにします。
長枠 (2) の低音側木口面および、低音側側枠の溝部には **"B"** の文字が印字されています。

※ 片側だけを先に入れずに、左右少しずつ入れていって、完全に下まで（止まるまで）押し込んでください。

長枠 (4) : YAMAHA マークがある。マーク面が聴衆側。



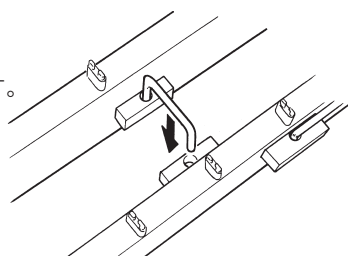
2-2 左右の脚が垂直になっていることを確認した後、長枠 (2) のネジ受け穴にステー先端のネジをしっかりと締め付けます。



2-3 続いて長枠 (3) , (4) をしっかりとめ込みます。

長枠 (3) の低音側面木口面および低音側側枠の溝部には C の文字が、長枠 (4) の低音側面木口面および低音側側枠の溝部には D の文字が、印字されています。

2-4 長枠 (3) の中央部に付いている短いかすがいを長枠 (2) に掛けます。



3 共鳴パイプを取り付けます。

3-1 まず、共鳴パイプを組み立てます。

幹音用、派生音用を間違えないで組み立ててください。

幹音用には、すべてのパイプに底が付いています。

3-2 まず派生音用パイプを本体の上から枠の間に、パイプ受けゴムにはめ込みます。

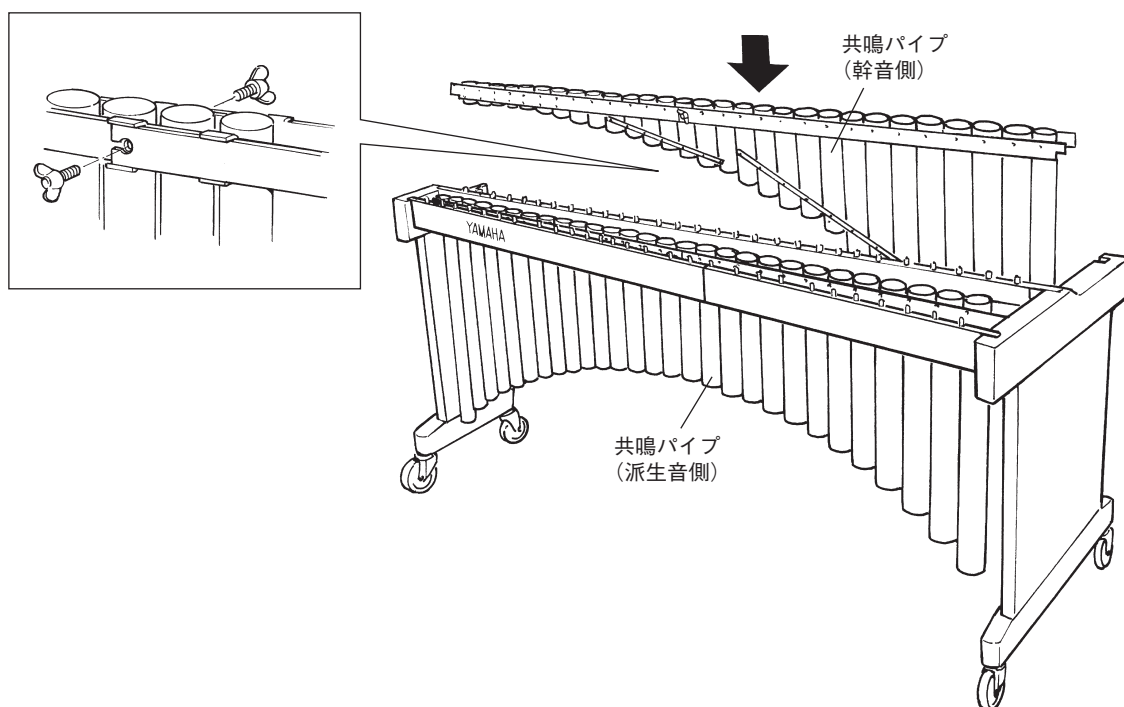
次に幹音用パイプを長枠と同じ要領で本体のパイプ受けゴムにはめ込みます。

低音側はパイプ受けゴム中央の溝にはめ込みます。*

パイプはできる限り吊金と吊金の中央にくるように取り付けます。

※ 幹音用、派生音用を間違えずに取り付けてください。

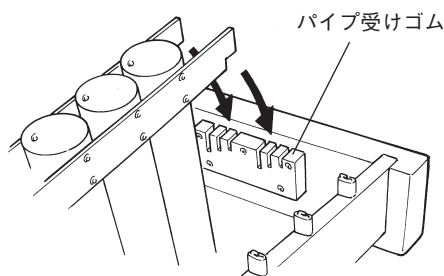
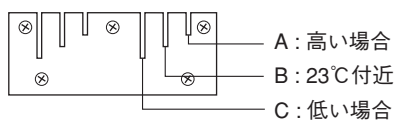
※ 共鳴パイプを脚などに当てないように注意してください。



共鳴パイプは、温度 23℃のときに最もよく共鳴するように調整されています。

使用時の温度が 23℃より高かったり低かったりして共鳴が悪い場合は、パイプをセットする溝を移動（温度が高い場合は浅い溝へ、低い場合は深い溝へ）してください。

温度	使用する溝
高い場合 23℃付近	一番浅い溝（下図 A） 中央の溝（下図 B）
低い場合	一番深い溝（下図 C）



組立手順

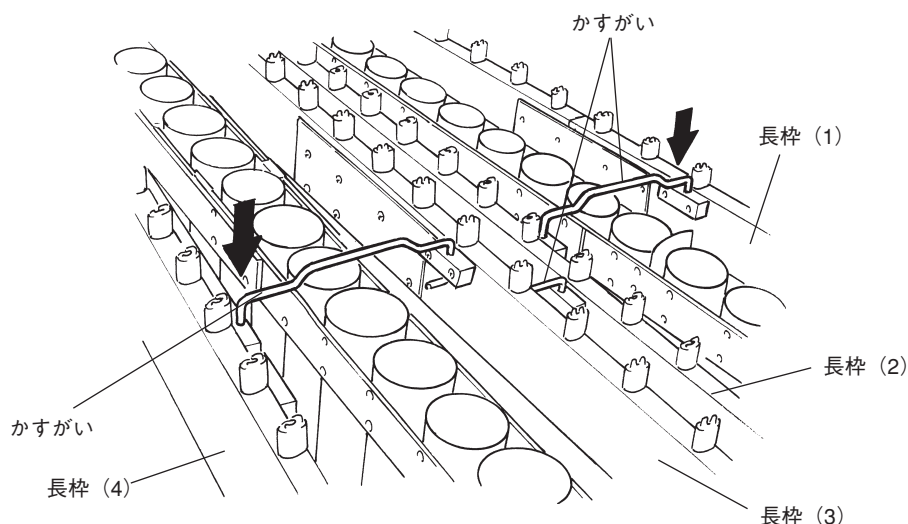
4 長枠（１）を側枠にはめ込みます。

4-1 外側の長枠（１）を内側の長枠（２），（３），（４）と同じ要領ではめ込みます。

長枠（１）の低音側木口面および、低音側側枠の溝部には“**A**”の文字が印字されています。

5 音板をセットします。

5-1 長枠（２），（３）に付いているかすがいを、長枠間の間隔を調整しながら長枠（１），（４）にはめます。



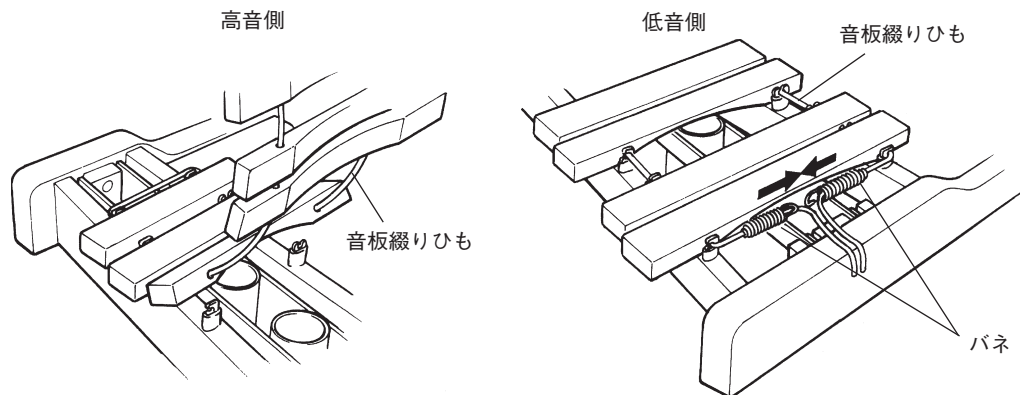
5-2 音板のセットは幹音板から行ないます。

まず２人でそれぞれ低音側、高音側の音板綴りひもを両手でしっかりと持ち、音板を静かにのせます。

音板の位置をひとつずつ合わせ、ひもを吊金に掛けていきます。

ひもがすべて吊金に掛かっていることを確かめたら、低音側で左右のひもを手前に強く引きながらバネどうしを掛けて固定します。

※ 音板を傷付けないよう気を付けてください。



6 最後に各部のネジがしっかりと締まっているか、もう一度確認してください。

仕様 / 音域表

■ YM-460/460F/2400/2400R

- 音域
A25 ~ C76 (4-1/3 オクターブ)
- 音板材
YM-460/2400R :
ローズウッド、
オープンボアーフイニッシュ
YM-460F/2400 :
アークスタロン (FRP)
ブラウン色ウレタン塗装
- 音板幅・厚さ
YM-460/2400R : 58 ~ 38 mm・25 ~ 21 mm
YM-460F/2400 : 58 ~ 38 mm・23 mm
- 共鳴パイプ
アルミニウム合金管
ライトゴールド・アクリル系焼付塗装
- 枠
MICA サーフブラック塗装
二つ折れ・分解式
- 脚
スチールパイプ
黒色レザーサテン塗装 (高さ調整式)
- 寸法 (間口 × 奥行 × 高さ)
197×88×89 ~ 97 cm
- 質量
YM-460/2400R : 55 kg
YM-460F/2400 : 61 kg
- キャスター
φ100 mm キャスター

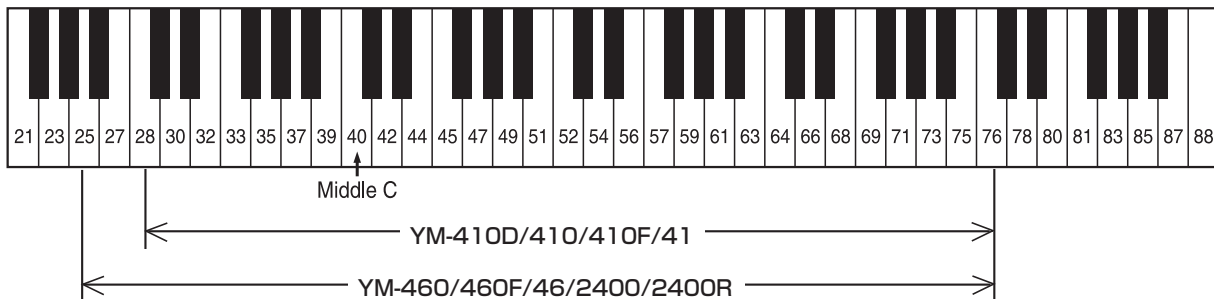
■ YM-410D/410/410F

- 音域
C28 ~ C76 (4 オクターブ)
- 音板材
YM-410D : ローズウッド、
オープンボアーフイニッシュ
YM-410 : ローズウッド、
オープンボアーフイニッシュ
YM-410F : アークスタロン (FRP)
ブラウン色ウレタン塗装
- 音板幅・厚さ
YM-410D/410 : 58 ~ 38 mm・25 ~ 21 mm
YM-410F : 58 ~ 38 mm・23 mm
- 共鳴パイプ
アルミニウム合金管
ライトゴールド・アクリル系焼付塗装
- 枠
YM-410D : ブラウン色ウレタン艶消塗装
二つ折れ・分解式
YM-410/410F : 黒色生地塗装、分解式
- 脚
YM-410D : 木製、ブラウン色ウレタン艶消
塗装およびブラウンレザー貼り
YM-410/410F : スチールパイプ黒色レザー
サテン塗装 (高さ調整式)
- 寸法 (間口 × 奥行 × 高さ)
YM-410D : 183×83×88 cm
YM-410/410F : 183×83×76 ~ 88 cm
- 質量
YM-410D/410F : 55 kg
YM-410 : 49 kg
- キャスター
φ100 mm キャスター

■ YM-46/41

- 音域
YM-46 : A25 ~ C76 (4-1/3 オクターブ)
YM-41 : C28 ~ C76 (4 オクターブ)
- 音板材
アフリカンパッドック
オープンボアーフイニッシュ
- 音板幅・厚さ
YM-46 : 58 ~ 38 mm・24 ~ 22.5 mm
YM-41 : 53 ~ 38 mm・24 ~ 22.5 mm
- 共鳴パイプ
アルミニウム合金管
ライトゴールド・アクリル系焼付塗装
- 枠
YM-46 : 黒色生地塗装
二つ折れ・分解式
YM-41 : 黒色生地塗装、分解式
- 脚
スチールパイプ
黒色レザーサテン塗装
- 寸法 (間口 × 奥行 × 高さ)
YM-46 : 189×84×86.5 cm
YM-41 : 176×80×85 cm
- 質量
YM-46 : 44 kg
YM-41 : 41 kg
- キャスター
φ75 mm キャスター

● ピアノの鍵盤との比較



※ 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。
最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

